

大雪山国立公園表大雪地域登山道関係者による情報交換会議事概要

日時：平成 29 年 6 月 13 日（火）

13:00～16:00

場所：美瑛町「四季の情報館」

1. 開会

2. 挨拶

■上川自然保護官事務所

- ・表大雪と東大雪地域に設立された大雪山国立公園連絡協議会が統合されたのがおよそ 20 年前。今の大雪山国立公園の基本的な体制はその頃のものベースとなっている。当時は東大雪と表大雪が連携しただけでも進展という認識だったと思うが、それから 20 年以上経ち時代も変化して、山の上では登山道の荒廃やトイレのし尿問題、維持管理の人手や資金が足りないという課題が出てきた。これら課題に対応するために、20 年前につくられた体制をよりよいものとし、今後は自治体、地元関係者、利用者みんなで大雪山を作っていくという考えが必要と思う。今の時代に合った仕組みをどのようにしてかみんなで考える時期に来ている。そうしたことも念頭に置きしつつ、今年度の各団体の活動予定を発表して頂き、情報共有していただきたいと思う。

3. 情報交換

(1) 各団体の平成 29 年度活動予定について

- ・環境省、上川中部森林管理署、上川南部森林管理署、上川総合振興局環境生活課、上川総合振興局南部森林室、上川町、公益財団法人日本山岳会北海道支部、旭川勤労者山岳会、美瑛山岳会、大雪山国立公園研究者ネットワーク、山岳レクリエーション管理研究会、山のトイレを考える会、(有)風の便り工房、山守隊、北海道山岳整備、大雪山倶楽部、東川エコツーリズム推進協議会、大雪と石狩の自然を守る会、NPO 法人大雪山自然学校、NPO 法人かむいから、資料に沿って、今年度の活動予定等の報告が行われた。

(欠席の黒松内銀竜草の会、NPO アースウィンドの計画は石田保護官より代読)。

(出席した富良野市、美瑛町、上富良野町、旭川山岳会、上川山岳会、富良野山岳会、大雪地区自然公園指導員連絡協議会、株式会社りんゆう観光、層雲峡ビジターセンター、山樂舎 BEAR から、事前の資料提供はなかった。)

- ・資料に記載された内容の他に説明がなされた内容は下記のとおり。

■上川南部森林管理署

- ・グリーンサポートスタッフの雇用は 1 名。巡視啓蒙活動は金・土・日に実施。

■上川総合振興局環境生活課

- ・黒岳石室のバイオトイレのし尿は 昨年度秋に荷下げができなかったため、今年度黒岳山開きに向けて、20 日～23 日の間に荷下げする予定。このトイレについては、利用者が多く処理が追いつかないため、尿だけを現地で処理する方法に方式を変えることを検討している。
- ・昨年度、美瑛町が望岳台にシェルターを作ったため、公共駐車場にある北海道のトイレは撤去予定。高原温泉沼めぐり 1 周コースが昨年の台風の影響で出来ないため、その代替えコースを検討中。

■上川総合振興局南部森林室

- ・例年通り巡視活動を6回実施するほか、勇駒別の高山植物園は6月15日(木)に開園となる。

■富良野市商工観光課

- ・原始ヶ原湿原の植生復元モニタリングを引き続き行う。昨年の台風の影響で原始ヶ原滝コースの丸太橋が倒壊してしまったため、橋の修繕を行う。8月11日の山の日に市民登山会を開催予定。各コースの案内看板の架け替えを行う。

■美瑛町総務課

- ・望岳台に防災シェルターが完成し、4月29日からは開放している。是非ご利用してほしい。

■上富良野町企画商工観光課

- ・6月18日の山開きに向けて、6月17日に登山道整備を予定。遊歩道の草刈りも行う。
- ・8月20日(日)にトレイルランニングの大会を十勝岳周辺で予定。8月27日(日)十勝岳ヒルクライムを予定。上富良野市街地から十勝岳登山口まで午前6時くらいか15時くらいまで閉鎖されるが詳細が決まり次第、関係団体には文書で連絡する。
- ・8月11日(金)山の日か8月12日(土)に上富良野町120周年を記念して上富良野山岳会主催で登山会を行う予定。

■旭川山岳会

- ・公共機関等の登山道整備等の協力要請があれば協力する。

■旭川勤労者山岳会

- ・美瑛富士携帯トイレブース保守のために置いてあるスコップが老朽化しているため、補充してもらいたい。

■上川山岳会

- ・遭対協上川支部で雪上訓練を兼ねて6月24日に黒岳登山道の雪割を行う予定。

■美瑛山岳会

- ・十勝岳は雪解けが早く登山者の入山が早いので、望岳台-十勝岳間はロープの設置・標識の点検は終えている。美瑛岳上部に整備されている導流工をつたい、土砂が高山植物帯に流れ込んでいるため7月頃土砂の除去を予定している。

■富良野山岳会

- ・原始ヶ原と富良野岳のコース整備を行う。6月11日に原始ヶ原林間コースの風倒木の除去、ササ刈りを終えた。

■大雪地区自然公園指導員連絡会

- ・事務局をしている私が住んでいる南富良野町が昨年、台風の影響があったため色々な活動ができなかった。例年、春・秋の例会を行っていたが、今後、年に一度は自然公園指導員の皆さんが一堂に会して一年間の指導業務の情報交換を行いたい。また、この連絡協議会は昭和51年に発足し、今も継続しているのは大雪地区のみであるため、今後も継承していきたい。

■大雪山国立公園研究者ネットワーク

- ・北海平は過去3年間調査してきたが、昨年8月の大雨で大きく崩壊した。
- ・登山道浸食の原因は、凍結融解による斜面側壁の崩壊、登山道の拡大、流水による洗掘がよく言われてきたが、北海平には地中1m位のところに永久凍土の一部である活動層があり、

昨年大雨により傾斜の緩い場所で永久凍土が融解したことによって崩壊したことが確認できた。今年度も登山道の荒廃に関わる調査を行う。

■山岳レクリエーション管理研究会

- ・6月19日(月)山岳レクリエーション管理研究会と山守隊の「大雪山に恩返し」講演会に現時点で60名申込みをいただいた。まだ席に余裕があるので申込みを受け付けている。

■(株)りんゆう観光

- ・愛山溪倶楽部の管理運営の受託が決まったので、それに伴ってツアーを企画したい。
- ・大雪山鳥瞰図は北海道最高峰の旭岳を主峰としたものが多いが、北海道地図に協力を頂き、りんゆう観光において黒岳を中心に据えた鳥瞰図を作成した。

■(有)風の便り工房

- ・大雪高原温泉ヒグマ情報センターの管理、沼巡り歩道の管理やパトロールを行い、ヒグマや沼巡りコースの情報を登山者に情報提供している。昨年度の台風の影響により、今年は沼めぐりコースを一周することができない。
- ・昨年、山の日に関係者と荷揚げした登山道資材は台風の影響で補修を行うことができなかったため、今年も行いたい。

■層雲峡ビジターセンター

- ・8月中旬から下旬にかけて短期インターンシップを行い、大学生2名を受け入れ予定。大雪山周辺の登山道整備イベントに参加したり、環境省で行う8月11日の山の日の携帯トイレ普及イベントのサポートをしたりする予定。

■山樂舎 BEAR

- ・「たまには山へ恩返し」ツアーが例年9月旭岳方面だけだったが今年は7月29日に黒岳・雲の平でも行うことになった。雲の平の整備は去年8月の大雨で洗掘が激しく周辺の永久凍土の活動層が崩壊し、土砂がお花畑に流れ出してしまったので、土砂を回収し土嚢で積み上げて法面の保護をしたり、排水処理をしたりする作業になる。参加出来そうな方は是非ご協力をお願いしたい。

■大雪山山守隊

- ・これまで登山道を補修する速度よりも崩壊する速度の方が早く、補修が追いつかないため、行政、研究者、民間を結んでオール大雪山の体制で登山道整備や維持管理を継続的に行うため3月に、大雪山山守隊を立ち上げた。
- ・今年の活動は「たまには山に恩返し」のサポート、6月19日の「大雪山に恩返し」の講演会を予定したが、年度内には法人化して来年の春から本格的に活動したい。

■北海道山岳整備

- ・姿見園地から当麻乗越、愛山溪の三十三曲りまでの巡視、美瑛富士トイレブース設置業務を環境省から請け負うこととなった。

■東川エコツーリズム推進協議会

- ・プライベートガイドの受託、東川中学校の愛護少年団の指導、環境省から請け負う勇駒別園地維持管理業務を6月～10月まで行う。

■大雪と石狩の自然を守る会

- ・大雪山を次の世代に繋ぐためにひぐま大学を開講しており、登山道状況、高山植物、外来種等の確認を行い、啓蒙と情報の収集を行っている。

■大雪山自然学校

- ・大雪山自然学校と連携して活動している NPO 法人 ezo rock の高橋氏が大雪山自然学校に同席しており、次の話があった。
 - ・2012 年から大雪山自然学校の旭岳自然保護監視員の活動に年 8 回ほど、土日を利用して主に札幌を中心とした若手社会人や大学生を 5 名～10 人ほど参加させて頂いており、去年は 170 人日ほど活動させて頂いた。
 - ・今年から申込み・興味関心が大きくなってきているので、山に恩返しツアーに参加させて頂きたい。

■NPO 法人かむい

- ・今年度より上川地区登山道維持管理連絡協議会の委託を受け、黒岳、赤岳、緑岳、白雲岳の巡視活動及び登山道補修を、林野庁の GSS と、スタッフは 6 名程度で共に行っていく。忠別岳、五色岳、愛山溪まで範囲を広げ、活動を行う予定。黒岳石室トイレ汲み取りの協力を行う。

(2) 各団体の平成 29 年度活動予定に関する質問、意見交換

■上川自然保護官事務所

- ・6 月 5 日、黒岳でフィンランド人が遭難をした事案があった。18 時 15 分頃、上川自然保護官事務所に電話があり、私が出ると英語で「旭岳から黒岳に来たが、下りに雪があつて動けない。食料・水もなく、アイゼン等の装備を持っていないので助けて欲しい」という内容だった。すぐに警察に連絡をして、(株)りんゆう観光にも対応頂き、翌朝無事下山をした。
- ・黒岳ー旭岳の縦走は外国人にも人気の縦走路。今回の件をきっかけとして、黒岳側と旭岳側の一層の連携について考えさせられた。例えば、旭岳側で黒岳ロープウェイの最終便の時間を掲示する、又はその逆を行う、双方で残雪の情報を発信するということができればよかったのではないかと。安全対策だけでなく両拠点での利用活性化にもつながり、利用者を増やすことができるチャンスにもなると思う。

■(株)りんゆう観光

- ・黒岳 7 合目に林野庁が登山事務所を開いている。入山時は必ず入林届けを書いてもらっていてその時点では何処方面に行くかはわかるが、ロープウェイのお客様の中では日帰りなのか縦走なのかは一切分からない。それは旭岳でも同様だと思うが、声かけ等も行っているので助言はさせて頂く。
- ・遭難が起こった場合は旭岳ロープウェイさんとも密に情報交換をしているが、実際はいつ入山したかは分からないことが多い。今後は入山に関して細かい情報を逐一押さえて旭岳ロープウェイさんとも情報交換が出来れば遭難も防げるかもしれないので、今後の課題として我々も考えていきたい。

■大雪と石狩の自然を守る会

- ・積雪期は積極的にガイドを伴い登山をすることを勧めたい。

■層雲峡ビジターセンター

- ・層雲峡ビジターセンターでは多言語で情報発信をしているが、積雪期はスタッフが現地に行くことが危険となることも有り、情報発信が薄くなっているのは実感している。大雪山の季節感が海外の人には伝わっていないことが多い。北海道の人だと 6 月の大雪山は冬に準じた

装備で入山するが、今回遭難したフィンランド人でさえそういった認識がないので、アジア人は欧米人が来てハイキングをしたいと言うが装備が伴っていないので殆ど止めている状況である。黒岳一旭岳間の連携も重要だが、情報発信の密度を濃くして来る人たちにここの季節感を事前に知ってもらうことも重要だと感じている。

■大雪地区自然公園指導員連絡協議会

- ・トムラウシ南沼汚名返上プロジェクトを立ち上げたと言われていたが、当方は何十年も前から南沼にはトイレを整備して欲しいと要望している。南沼には多くの登山者が訪れており、し尿で汚れている状況を行政側も確認しているはず。トイレを整備せず、携帯トイレの普及だけでこれを乗り切れると思っているのか、国立公園を管理している環境省の意見を聞きたい。

■上士幌自然保護官事務所

- ・施設整備の予算は国も北海道も厳しい状況にある。固定トイレは整備だけでなく、その後の汲み取りやヘリコプターでの搬出に莫大な予算がかかり、それを毎年継続して確保していくことが難しい。南沼には平成 14 年に北海道が携帯トイレブースを整備したが、整備後に携帯トイレの普及活動を十分にしていなかったり、トムラウシ温泉などの主要登山口で携帯トイレを販売していない状態であったので、トイレ問題が進むのも必然の状況であったと思う。なので、汚名返上プロジェクトではまず携帯トイレを使ってもらうために必要な努力をしていく。そして併行して、登山者が南沼のトイレのあり方についてどういったことを考えているのか、アンケート調査も現地で行う。まずは今できることから始めていき、その結果を踏まえて今後の南沼のトイレのあり方を関係機関と検討していきたい。

■上川中部森林管理署

- ・昨年の情報交換会で申し上げたが、レクリエーション施設である歩道や野営地は無料で貸し付けることができるようになり、市町村や行政機関には事業を行う場合は借りていただくようお願いをしている。基本的に歩道の管理は事業執行者が行うべきで、例えば、高原温泉から緑岳の間のように、私ども GSS が管理している区間以外については、サービスで行っていたという認識。今年度からロープ引き等は出来なくなり、GSS が主体ですることはなくなり、ご協力を要請されれば参加するという形になるのでご承知置き頂きたい。ただ、上川町の自然保護巡視員の方と一緒に活動してきた面もあり、上川町と相談しつつ、今後の対応を検討したいと考えている。
- ・上川総合振興局の登山道保全技術セミナーの「たまには山に恩返し」は事業で行うのであれば借りて欲しいと言ってきたところ。これに対して、これはイベントであって長期的にやるものでもなく、ボランティアで行うと聞いていた。一方、今日の資料4によると、地域政策推事業となっているので事業化されたと言うことでよいのか？

■上川総合振興局環境生活課

- ・環境保全ツアーとして自然観察会を行うことも同様であるが、予算措置が講じられており、その予算の名前に事業という名称がついているもの。毎年見直しがなされており継続的にできるものではない。事業という名称がついていることにより手続きが必要なのであれば行わせて頂きたい。
- ・この地域政策推進事業は、各振興局の地域政策課で特色を持たせた事業をしていくため平成 27 年度から 5 年計画実施しているもの。環境保全に関する普及啓発を目的としており、登山道を補修する経験を生かして環境に配慮する意識を高めていくもの。ハード整備をする事業ではなく、ソフトの普及啓発のソフトの一環と考えている。

4. 話題提供

(1) 大雪山国立公園における歩道維持管理作業実施手順マニュアル（ただき台）について

■上川自然保護官事務所

- ・大雪山国立公園には延長 300km に及ぶ登山道があり、荒廃が大きな課題となっている。行政だけでは手が及ばず、民間、ボランティアの方々でも登山道補修に関わりたいという方もいる。今後、登山道は多様な団体が参画して維持管理をしていくことが必要になってくると思うが、その際に登山道の維持管理、修繕、補修に関わりたいときにどうやって関わっていけば良いのか、どうやって修繕していけば良いのか、これまで明確ではなかったので、実施手順を明確にしてみんなで共有することが大切になると考える。
- ・また、作業をして施工が原生的な大雪山に合っているのか、品質の確保が出来るのか、しっかりと計画を立てて実施してみんなで共有する体制も必要と考える。
- ・どのような手順で実施するのかまとめておく必要があるので、登山道維持管理作業実施手順マニュアルを作りたく、そのただき台を作成したので、御意見・御感想・御質問があれば後日頂きたい。資料 14 の説明。

(2) 大雪山における避難小屋・野営指定地の利用実態調査と登山道の荒廃状況の情報収集への協力について（依頼）

■山岳レクリエーション管理研究会

- ・北海道大学大学院から話題提供、山岳レクリエーション管理研究会山口氏が資料 15 を代読。

■北海道山岳整備

- ・このレポートは今シーズンからスタートなのか？登山道レポートはデータが集まったら、発信したりデータが見えたりするのか？

■山岳レクリエーション管理研究会

- ・お宿帳は平成 27 年からはじまっているが、年間 2, 30 件しか報告が来ていないので周知徹底が必要だと思う。お宿帳、登山道レポートは今シーズンはもうスタートしている。フォーマットについて要望があれば書いてもらいたい。データが集まったら報告すると聞いている。

■山のトイレを考える会

- ・何度かお宿帳のレポートを提出しているが、何もレスポンスがないのでどうなっているかわからない。何かレスポンスした方がまた投稿してくれる人が増えると思う。

(3) 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けて

■上川自然保護官事務所

- ・大雪山国立公園の管理運営体制をより良くしていくため、私ども考えている問題意識を皆様に共有し、今後の体制について検討したいと考えているところ。資料 16 の説明。

■山樂舎 BEAR

- ・資料 121 ページの「総合型協議会で策定したビジョン等を国立公園管理計画の一部として位置づけ」と記載があるが、このビジョンは何処で策定するのか？

■上川自然保護官事務所

- ・多様な関係者が参画をする協議会を総合型協議会と呼んでおり、ビジョンはその協議会で

策定するもの。その協議会では国立公園の将来像を作って、それを管理運営計画の一部として位置づける。

■山樂舎 BEAR

- ・最近、環境省では国立公園満喫プロジェクトをしていて、国立公園の利用となると観光的な側面や登山道の話になるが、ポスターなどよく見るとアイヌ語のローマ字表記や簡単な表記が間違っていたり、薄っぺらく思うので、もっと掘り下げて哲学的な部分まで話し合う場を作った方が良いと思う。
- ・これから海外の人たちに対して、もともとここにどういう人たちが住んでいたかをお話するようなエコツアーも必要になってくる。もう少し奥深い話をしたいので、そういう理念・ビジョンを作るような話ができる場を作って欲しい。

■上川自然保護官事務所

- ・国立公園満喫プロジェクトは北海道では阿寒が選ばれていてアイヌ文化が資源の一つとして活用されている。ご指摘は私も共感を覚えるが、大雪山全体でアイヌ文化とどう向き合い、活用していくか、活用するにはアイヌ文化にしっかり寄り添ったものにする必要があると思う。アイヌ語の地形や地名、さらには英訳の話など、今の体制にプラスアルファして、大雪山全体で議論できる体制があればと考える。

■北海道山岳整備

- ・資料 16 の大雪山国立公園の目指す姿として4つのことが書かれているが、登山道の荒廃問題への対応以外は、大雪山を商売にして人を呼び込むことが、魅力の向上であるというように読み取れる。自分としては、大雪山は守るべき故郷の山なので、大雪山に登る人だけを対象にするのではなく、大雪山のふもとである旭川も含めてしっかり発信すれば、おのずと色々な人たちが来るようになると思う。大雪山を商品化したり、地域外の人に迎合したりするのではなく、地元の人たちが誇れる山にしたいと思っている。

■上川自然保護官事務所

- ・国立公園を地元としての価値、宝を対外的に整理して示すと、そこにこそ地域のオリジナリティ、魅力を感じると思う。

■上川総合振興局環境生活課

- ・今後、これを推進していく上でも、公園計画・管理計画・事業計画の策定の中心は環境省になると思う。資料 16 に登山道荒廃問題の解決とあるが、主たる路線の殆どが北海道の路線である。しかし、三位一体の関係もあり、北海道が出来ることとしては既に北海道が整備した登山道の補修改良だけで、新規に整備することはないと思う。事業執行者を北海道を外して欲しいとは言わないが、富良野岳からトムラウシを経て黒岳から旭岳の主要縦走路線は北海道と環境省が連名になるようにしてほしい。

■大雪と石狩の自然を守る会

- ・「利用と保護」の「保護」部分が抜けていると思う。これはこれで進めていく必要があると思うが、大雪山をどうしたいのかオープンに話す場が必要である。たくさん市の町村が大雪山を取り囲んでいるが、そこではやはり利用の面で重きを置くことになるのだと思うが、今ある自然を守り次世代に引き継いでいくことも考えて欲しい。3年～5年で異動していく環境省ではなく、こういったことは本来、地元の人たちが考えるべきこと。

5. 閉会

■上川自然保護官事務所

- ・今年度の活動予定を共有できたと思う。また相互に連絡を取り合いながら今年度の活動を行っていただければと思う。話題提供では、色々御意見を頂き感謝。